

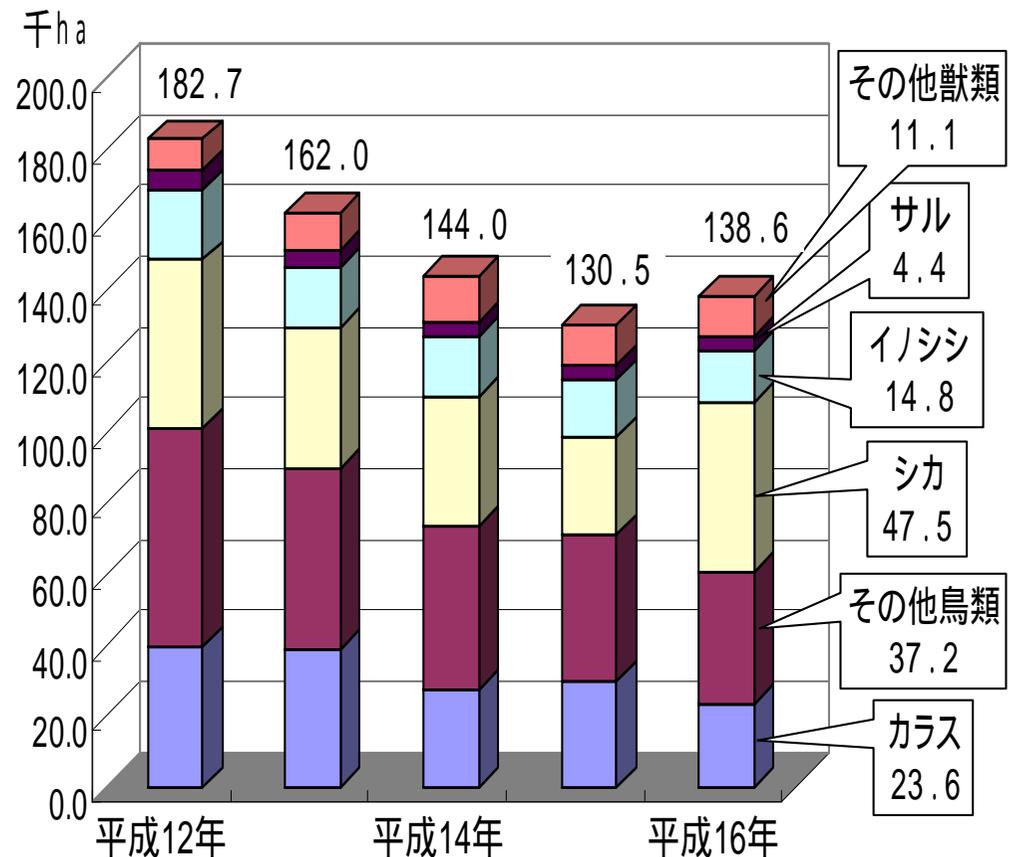
～ 1 鳥獣被害の現状と要因 ～

鳥獣被害の現状（被害面積）

平成16年度の農作物被害面積は約13.9万ha。

獣類被害は横ばい、鳥類被害は減少傾向にあり、全体としては減少傾向。

野生鳥獣による農作物被害面積の推移

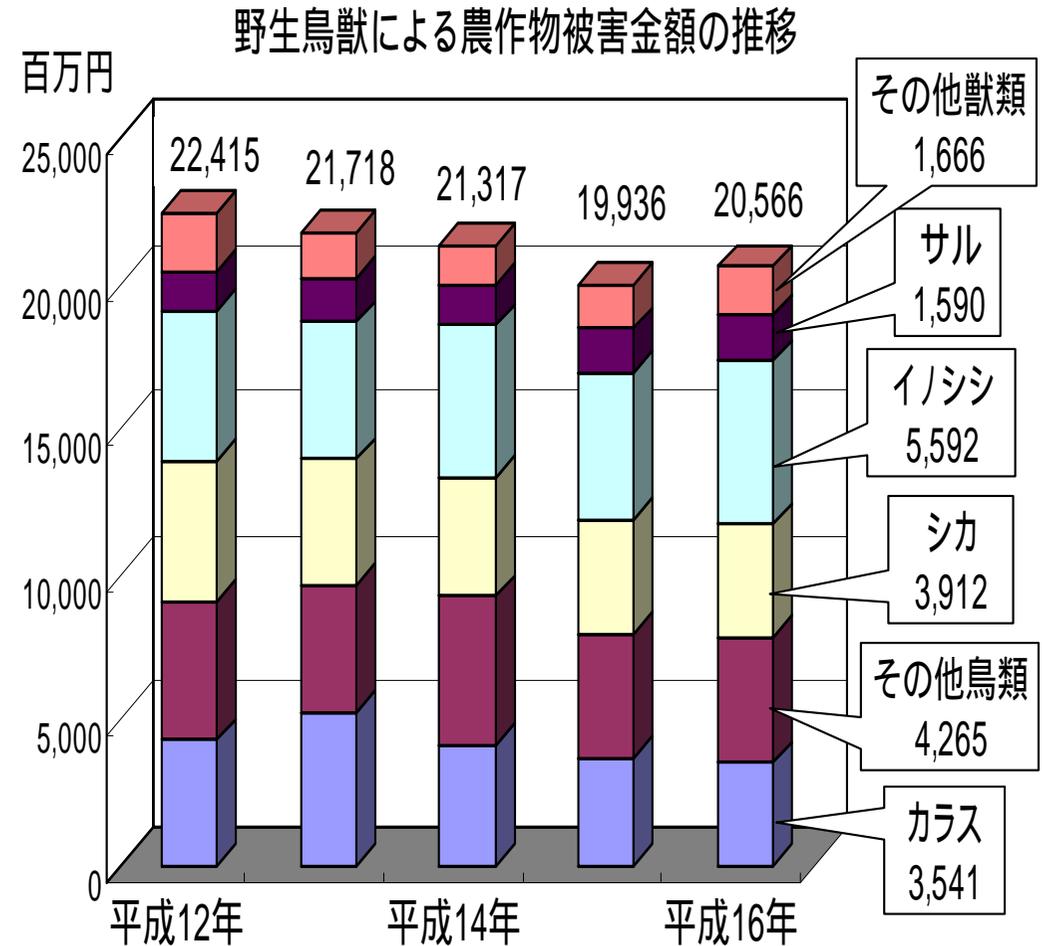


農林水産省「生産局農産振興課資料」より

鳥獣被害の現状（被害金額）

平成16年度の農作物被害金額は約206億円で、近年横ばい傾向。

鳥獣別では、獣類6割、鳥類4割。特に、イノシシ、シカ、サルの被害が獣類被害の9割、鳥獣全体の5割強を占める。

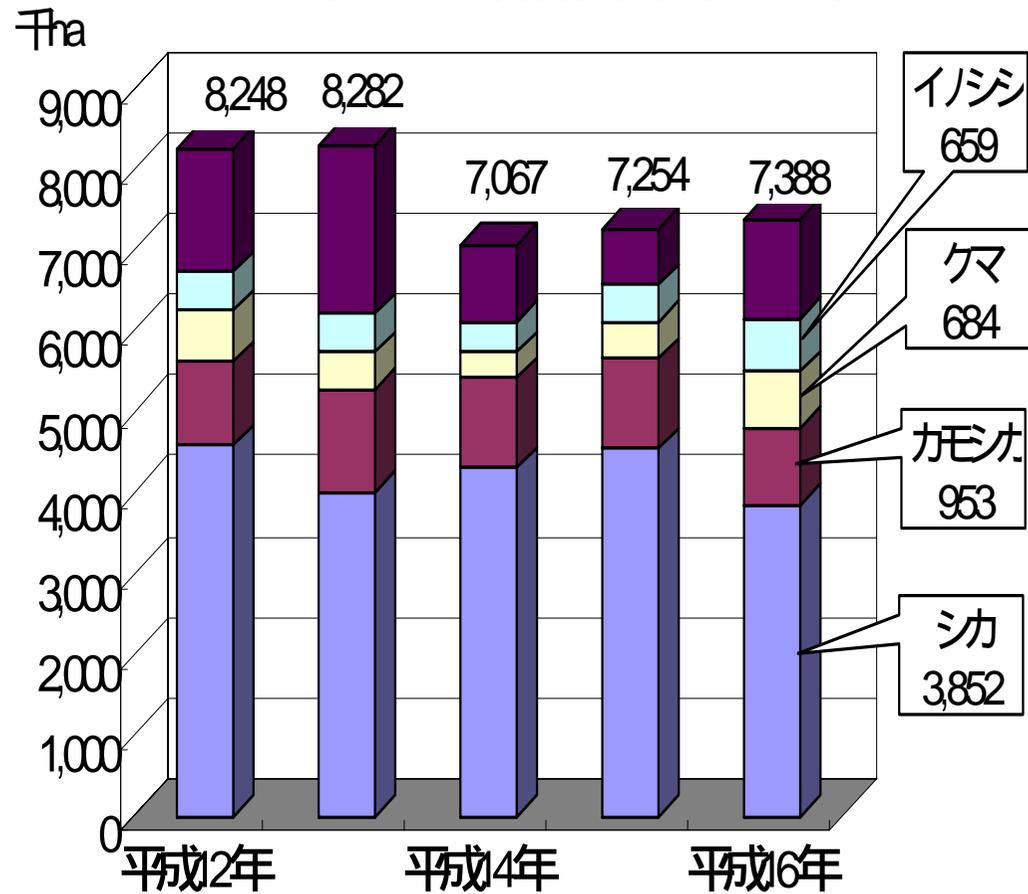


農林水産省「生産局農産振興課資料」より

鳥獣被害の現状（森林被害）

森林被害面積は、近年7～9千haで推移。
平成16年度の被害面積は約7.4千haで、うちシカによる被害が5割以上。

野生鳥獣による森林被害面積の推移



林野庁「業務資料」より

鳥獣による被害拡大の要因

里の変化
農業構造の変化

気象の変化
生息環境の変化

捕獲圧の変化

野生獣による農作物被害多発

里の変化、農業構造の変化

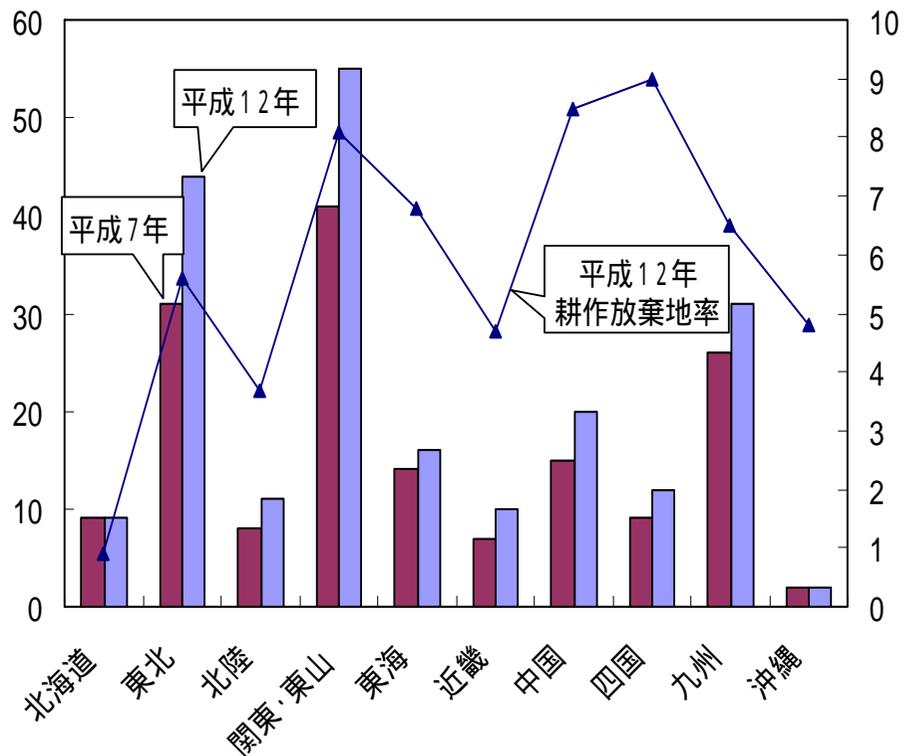
～ 人間活動の低下、耕作放棄地の増加～

農村地域において過疎化や高齢化等に伴い、里山等における人間活動が低下。

餌場や隠れ場所となる耕作放棄地が増加。

平成12年度の耕作放棄地面積は約21万ha、不作付地面積は約27.8万haで農地全体の12.5%。

千ha 全国農業地域別に見た耕作放棄地の状況



農林水産省「農(林)業センサス」より

気象の変化、生息環境の変化

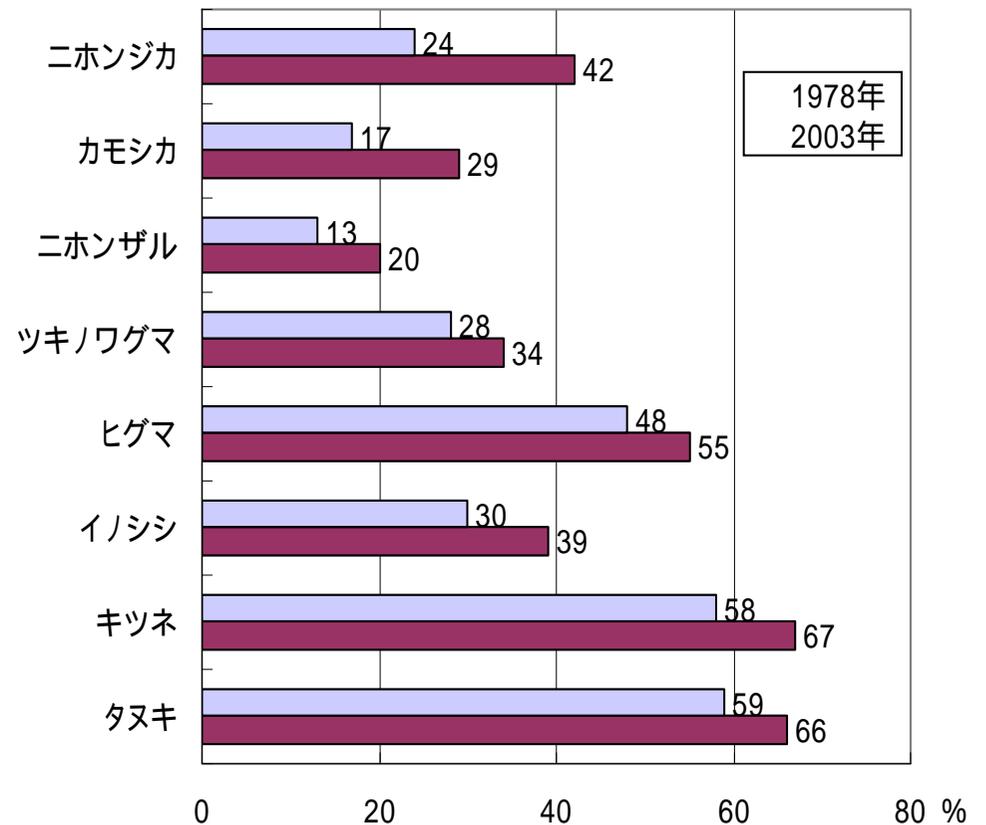
～ 温暖化、分布域の拡大～

少雪化や暖冬傾向により生息適地が拡大。

繁殖率の向上、生殖年齢の低下や幼獣の死亡率の低下などにより、分布域が拡大。

里山における管理の粗放化等により生息域が変化。

国土全体に対する生息地域の割合



環境省生物多様性センター「自然環境保全基礎調査」より

捕獲圧の変化

～ 狩猟者の減少、高齢化 ～

狩猟者の減少や
高齢化等に伴い、
地域によっては狩
猟による捕獲圧
(サルは除く)が
低下。

平成14年度の
狩猟免許取得者数
は、約20万人。

年齢別狩猟免許の取得者数の推移

